

【メディカルライティング・セミナー 開催報告】

株式会社パナシアは、昨年と一昨年の2回にわたって、製薬企業のメディカルライティング（MW）関連部門を対象にセミナーを開催し、MW業務にプロジェクトマネジメント（PM）の手法を取り入れることによって期待できる効果を考察するとともに、開発業務受託機関（CRO）に業務を委託する際のPM上の留意点を共有しました。

今年の6月に開催した3回目のセミナーでは、長期間にわたり多数の関係者が関与するMW業務上のコミュニケーションに着目し、PMの視点からのコミュニケーションマネジメントの基本を学ぶとともに、MW業務を円滑に進めるための留意点を確認しました。本セミナーには、19社28名の皆さんに参加いただき、セミナー後のアンケートでは多くの方より「大変参考になった」又は「参考になった」と評価していただきました。（開催報告の詳細は下記参照）

パナシアは、今後も年1回の頻度（毎年6月開催予定）で、製薬企業のMW関連部門の担当者様を対象に、独自の視点でセミナーを企画してまいります。

なお、来年6月開催予定の次回セミナーでは、『海外申請用CTDの有無による、日本申請用CTDの作成方法（仮）』をテーマにしたパネルディスカッションや、『AI翻訳の現状とメディカルライティングへの応用の検討（仮）』をテーマにした特別講演を企画検討中です。詳細が決まりましたら、あらためてご案内いたしますので、次回セミナーへの参加をご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■ 開催概要

- 日時： 2019年6月19日（水）13:00～17:00
- 会場： AP品川アネックス
- 主催： 株式会社 パナシア
- 参加費： 無料
- 対象： 製薬企業のMW関連部門の担当者様

■ プログラム

13:00-13:05	開会挨拶
13:05-14:05	<u>演題①：講演「コミュニケーションマネジメントの基本」</u> PMコンサルティングポジティブ・インテンション 代表 今野 浩一 氏 メディカルライティングをプロジェクトマネジメントの視点から捉え、仕事を円滑に進めるためのコミュニケーションのポイントを考えてみたいと思います。また、メディカルライターを育成する際の参考として、部下育成を目的としたコミュニケーション（コーチングを含む）の基本的な考え方についても紹介します。

14 : 05-15 : 05	<p><u>演題② : 演習 「治験総括報告書を作成する際のコミュニケーション」 (グループ討議)</u></p> <p>アラメディック株式会社 代表取締役 林 健一 氏 メディカルサービスネットワーク株式会社 代表取締役 石田 啓介 氏 PM コンサルティングポジティブ・インテンション 代表 今野 浩一 氏</p> <p>以下のテーマについて、5~6名のグループで話し合い、意見を集約していただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 III 相検証試験 (いわゆるピボタルスタディ) の治験総括報告書の作成を社内担当者又は CRO に依頼する場合、どのような情報を提供すべきでしょうか？ ・ さらに、どのような点に留意してコミュニケーションを図る必要があるでしょうか？
15 : 05-15 : 35	休憩
15 : 35-16 : 35	<p><u>演題② 続き : 演習 「治験総括報告書を作成する際のコミュニケーション」 (講師解説)</u></p> <p>各グループの討議結果をもとに、参加者との意見交換及び質疑応答を通して、MW 業務での実践的なコミュニケーションの留意点を解説します。</p>
16 : 35-16 : 55	会社紹介 : パナシアの業務内容及び受託実績を紹介します。
16 : 55-17 : 00	閉会挨拶

■ 講師略歴

<p>氏名 : 今野 浩一 氏</p> <p>所属 : PM コンサルティングポジティブ・インテンション代表、一般社団法人 DIA Japan PM コミュニティー・リード、一般社団法人 新興事業創出機構 フェロー</p> <p>略歴 : 東北大学卒業。製薬企業において長く医療用医薬品開発に従事。製薬業界へのプロジェクトマネジメントの導入・展開を推進。2013年に「PM コンサルティングポジティブ・インテンション」設立後は、大学病院等の医療機関で臨床研究を推進するリーダー・マネジャーに対してプロジェクト・マネジメントの教育活動を推進。プロジェクト・チームコーチ/ビジネスコーチ、製薬業界へのプロジェクトマネジメントの啓発・実践活動をメインとしながら、ベンチャー企業、非営利団体の事業推進支援を展開している。</p>
<p>氏名 : 林 健一 氏</p> <p>所属 : 株式会社パナシア エグゼクティブ・アドバイザー、アラメディック株式会社 代表取締役、日本メディカルライター協会 理事、東京大学大学院医学系研究科 非常勤講師</p> <p>略歴 : 東京大学薬学部卒。製薬企業で臨床試験の統計解析・新薬開発のプロジェクトリーダー・医薬品の承認申請資料作成業務を担当した後、2007年に開発業務受託機関「アラメディック株式会社」を設立し、代表取締役に就任する。さらに、2019年4月付で株式会社パナシアのエグゼクティブ・アドバイザーに就任する。現在は、医学論文の投稿用原稿やプロトコル・治験総括報告書・承認申請資料などの作成業務を受託している。あわせて、研修の講師として、臨床研究方法論や医薬品開発、メディカルライティングなどに関する講義を製薬企業内で実施している。</p>

氏名：石田 啓介 氏

所属：メディカルサービスネットワーク株式会社 代表取締役、理学博士

略歴：北海道大学薬学部卒業。北海道大学大学院薬学研究科修了。製薬会社及び内外の研究機関にて主に新規抗がん剤の創薬研究及びプロジェクトリーダーの経験を経て、2015年「メディカルサービスネットワーク」に参加、2016年に代表取締役就任。メディシナルケミストリー、天然物化学、コンピュータ支援薬剤設計、薬剤－標的相互作用解析、各種 in vitro 試験、各種 in vivo 試験、薬物動態、毒性試験、製剤検討、メディカルライティング、コンサルティング業務に携わる。基礎－非臨床－CMC－臨床という医薬品開発の全領域をカバーする経験を有することから、薬剤の分子メカニズムに立脚した質の高いメディカルライティング、コンサルティングを志向している。

■ アンケート結果

【参加者】

区分	会社	個人
内資製薬企業	14社	18名
外資製薬企業	5社	10名
合計	19社	28名

※ アンケートの回答者数：19名

【設問別の回答】

Q1. 演題①、講演「コミュニケーションマネジメントの基本」についての感想は、次のうちどれですか？

回答		
大変参考になった	6人	31.6%
参考になった	11人	57.9%
どちらともいえない	2人	10.5%
参考にならなかった	0人	0.0%
聴講しなかった（遅れて参加、又は途中退席等）	0人	0.0%

Q3. 演題②、グループ討議「治験総括報告書を作成する際のコミュニケーション」についての感想は、次のうちどれですか？

回答		
大変参考になった	6人	31.6%
参考になった	11人	57.9%
どちらともいえない	2人	10.5%
参考にならなかった	0人	0.0%
聴講しなかった（遅れて参加、又は途中退席等）	0人	0.0%